



ニューデリーで行われた国際ヨガの日のイベントで多くの参加者と共にヨガを行うモディ首相(最前列)

### 「国際ヨガの日」を提案し 世界でイベントが実現へ

ヨガは世界に対するインドの古代伝統の貴重な贈り物です。5千年以上の歴史があります。ヨガは、心と身体、思考と行動抑制と達成との一致、人間と自然との調和などを具体化した、健康と幸福に対する心身一体的アプローチです。運動ではなく、自己、世界、自然との一体感の発見を目的とするものです。生活様式を変え、意識を生み出すことで気候変動に対処する手助けをしてくれます。「国際ヨガの日」の採択に向けて共に取り組もう——これは、インドのナレンドラ・モディ首相が、2014年12月11日に国連総会の場で行った演説です。モディ首相はさらに、6月21日を国際ヨガの日として宣言するよう国連に提案し

ばすのを見るのは心躍る出来事です。中国の北京では、何千人ものヨガ実践者が中国全土の14を超える都市でイベントを行いました。インド政府は、インドの外交派遣団(大使館)が191カ国でヨガの日祭りを組織したと述べました。外務大臣のスシユマ・スワラジ氏は、ヨガを行った何十万もの人にとって肌の色、宗教政治上の所属や国籍は関係なく、ヨガの力によってすべての人が一体化した、と述べまし

## モディが変える インド経済

### 第5回

## 「国際ヨガの日」実現で 世界の平和にも貢献を

ヨガはサンスクリット語の「ユジュ」(馬にくびきをかける)が語源で、体、心、魂を神(あるいは宇宙)に結び付ける修行法として、インダス文明で生まれた。モディ首相は国連で「国際ヨガの日」を提案し、採択された。ヨガを通じて国際社会でのプレゼンスを高める「ソフトパワー外交」の成果だ。

ました。これは、その時期に多くの国で昼と夜の長さがほぼ同じになるからです。

国連はモディ氏の提案を受け入れ、6月21日を「国際ヨガの日」と宣言しました。ヨガの日に向けた決議は、わずか75日とい

う短期間に193カ国の国連加盟国のうち175カ国によって共同提案されました。56カ国のイスラム協力機構の加盟国のうち47カ国も共同提案者に加わりました。何人かのオブザーバーが述べたとおり、国連がわずか

た。ヨガは、国際的な舞台でインドのソフトパワーの影響を増大させ、国際ヨガの日は、信奉者の健康を促進しつつインドの国際的知名度を高めました。

### ヨガは経済的効果以外に 平和のイメージも強化

昨年来、ヒンドゥー至上主義にルーツを持つ政治家であるモディ氏は、インドの国際的知名度を高めることを目指し、国内政治により多くの愛国心を注ぎ込み、インドの文化外交を強化するために長きにわたるインドの慣習に目を向けました。多くのアナリストは、これは国際的に影響を及ぼすインドのソフトパワーであり、世界大現実を目前すインドにとって重要な手段となる、と見ています。ヨガは、インドが持つ国際的手段のうちで最高のソフトパワーのひとつ

であると多くの人が記しています。米国だけでも、ヨガに関連するサービスやヨガ関連業界の商品は、300億ドルを超える規模となっています。

モディ氏自身も熱心なヨガ実践者であり、ヨガを推進する動きには、国際的な目的だけでなく、重要な国内的な目的もあります。「Times of India」(インドの国民的新聞)は、

増加するインドの中流階級は、1990年から13年の間に糖尿病の割合が123%も上昇するなど、健康危機を経験している」と報じました。インドの役人にとって、ヨガを推進することで人々を健康にし、医療費を引き下げるのがより重要です。また、ヨガはインドにやって来る観光客にとって大きな魅力にもなります。多くの旅行代理店は、ヨガスポットを歩き先リストに

45日間で提案の決議を通過させたことは非常に驚くべきことで、かつてないことです。

宣言を受けて、15年6月21日に初めての国際ヨガの日が世界中で施行されました。モディ首相や多数の政府高官が、ニューデリーの議会近くの広場で35分間にわたってヨガを行いました。このイベントは2つのギネス世界記録を打ち立てました。

a. 3万6千人が参加した世界最大のヨガイベント

b. 参加者の国籍数が世界最多の84カ国

メディア報道によると、170を超える国で、およそ500万人が第1回目の世界ヨガの日を祝いました。ニューヨークのタイムズスクエアや、ロンドンのテムズ川のそば、パリのエッフェル塔の下で数十万人のヨガ愛好家がマットの上で身体を伸

加えています。このことは、収益を生み出す、外貨を増やす、現地の雇用を増やすといったことは別に、平和を愛する国としてのインドのイメージを強化することになります。

ヨガは世界へのインドの贈り物であり、より長く、より良く、より幸せに生きる秘訣です。☑



帝羽ニルマラ純子

(ていは・にるまら・じゅんこ)インド共和国・バンガロール生まれ。法政大学大学院修了(イノベーションマネジメント専攻)。日印コンサルタント会社起業を経て、現在インドビジネスアドバイザー。来日以来16年間で、日本企業の海外展開、外国企業の日本市場参入支援を中心に活躍。「日本人が理解できない混沌(カオス)の国インド 政権交代で9億人の巨大中間層が生まれる」(日刊工業新聞社)など著書多数。